

Ⅱ 研究の概要

1 研究主題

生き生きと学び、みんなとともに成長し合う子をめざして

～思考力・判断力・表現力を高めるために～

2 主題設定の理由

本校は、小規模校のため児童は、入学時からほぼ同じクラスメートで進級するとともに、同じ上級生・下級生の関係を保って、学校生活を過ごしている。このような状況は、児童間の関係を固定化させ、正確な言語表現をしなくても、相手に意が通じるなど、コミュニケーション能力や正しく判断する力を育てるうえでの妨げとなっている。

このような実態から、相手に対して自分の考えや思いを、工夫して正しく伝えようとする表現力と自分の考えを筋道立てて論理的に話したり、書いたりすることのできる思考力・判断力を育てるための実践を、主に算数科を通して行ってきた。

その結果、考える力や発表する力は少しずつ身に付いてきているが、他の意見をもとに自分の考えを深めたり、練りあったりするところまでは至っていない。そこで、本年度も「児童が自ら主体的に学んでいく学習」を活かしながら、授業では、先ず自分の考えを持ち、考えたことをいろいろな方法で発表し、深め合い、学級全体のものにしていくという授業プロセスを大事にしていきたい。そうすることにより、思考力や表現力がさらに育っていくのではないかと考える。

子どもの実態や昨年度までの反省のうえにたって、今年度も現職教育の中核に算数科を据え、子どもたちの思考力・判断力・表現力を高める実践を積み重ねていくことでこの研究テーマを設定した。

3 研究の方向並びに具体化

①思考力・判断力・表現力を高める。

- ・算数科の学習を中心にして、自分の思いを様々な方法で表現できる機会を多く取り入れる。

②基礎学力の充実を図る。

- ・読解力を高める学習や漢字力・計算力向上の反復練習を行う。

③複式教育の実践を深める。

- ・子どもたちが主体的に学習を進められるよう、複式学習の形態を研究し、指導方法の工夫改善に努める。
- ・より学習効果を高めるための異学年合同の学習について研究を進める。

④外国語活動の実践を深める。

- ・コミュニケーション能力の素地を養うための効果的な指導方法を研究する。

⑤人権教育・道徳教育の研究と実践を深める。

- ・総合単元的な人権教育・道徳教育の指導方法を工夫する。

4 主な実践の概要

(1) 算数科の取組

① 指導案及び教材の検討

子どもたちの思考力・判断力・表現力を育成するために、必ず現教部会において学習指導案や教材を工夫して作成した。単元で身に付けさせたい力を明確にし、目標と指導と評価の一体化を図るようにするため、評価規準を絞り、1単位時間におけるめあてを明らかにした。その中で複式における同時間接の指導方法を工夫・改善した指導案になるように心がけた。また、指導案の形式も統一し、系統性を生かした。

9月 8日	低学年	授業案・教材検討
9月22日	中学年	授業案・教材検討
29日		
11月10日	高学年	授業案・教材検討

② 研究授業

研究授業は、各学年で行い、指導主事や指導委員の指導も仰ぎながら自らの指導力を向上させた。協議会が充実するようにKJ法を取り入れ、それぞれの協議会ごとに教員一人一人が話し合いに積極的に参加しながら成果と課題を出し合うことができた。指導主事からもKJ法の良さを認めていただき、以下のような意見もいただいた。

授業日	学年	単元名
9月15日	低学年 1年	3つのかずのけいさん
	2年	ふえたり へったり
10月 6日 (指導訪問)	中学年 3年	あまりのあるわり算
	4年	式と計算のじゅんじょ
11月17日	高学年 5年	面積
	6年	体積

(指導訪問における協議の概要)

授業者から

3年生では「ヒントカード」を作っていたが、授業中に子どもたちにどの程度のアドバイスやヒントが必要なのか。4年生のまとめの所では、子どもが考えた言葉で言えたらいいが、1人であるため、つい教師が考えを誘導してしまうことがあることがある。3・4年で授業の交流はするが、することによって授業時間が必ず超えてしまう。

指導委員から

自分は交流はしていないが、毎時間日記を2～4行程度書かせている。日記を書かせることにより、算数用語を使えるようになり、今日の授業の内容を確認できる良さがある。

指導主事から

- ・ 同時間接の授業がうまく進められている。
- ・ リーダーが育て子どもたちで授業を進めることができている。
- ・ 複式授業では、事前の準備が大変だが教材や教具の準備がきちんとされている。
- ・ これからの算数的活動には、思考力・判断力・表現力をとても大事にしていかなければならない。
- ・ 算数科でも、書くことを大事にしたい。また、言語活動も大事にしたい。
- ・ 1人学級の授業では、先生以外の子どもと同等なキャラクターを登場させることはとてもいいことで続けることが必要である。

③ 夏期校内現教

8月2日 西上イツ子氏をお招きして校内現教を行った。

テーマ：「算数科における効果的な複式指導のあり方」

(講義のポイント)

- ・ 学び方を指導し、学習能力や態度を育てること
 - ・ 個として学ぶこと・集団で話し合うことの2つの学びの実現
- この二つを両立させるには

学習態度 (学習規律) を確立することが大事

- ・ 基本的な学習形態を身に付けさせる

i 個人学習 (考える)

↓ 視写・音読・みんなで読む

★分かっていること

★聞かれていること (おたずね)

下線を引く

↓ 内容を絵や図・表などに表す・具体物で考える
個々の解き方の道筋や根拠をノートにまとめる

ii 集団学習 (みんなで考える)

iii 個人学習 (みんなが伸びる)

iv 複合問題を解く

v まとめ (今日学んだことを書く)

算数科の複式授業の基本を教えていただいたが、このことは単式学級であっても同じことで、授業を進めていくうえでの根幹をなすことであると再認識させられた。

算数科の思考力・判断力・表現力を高め、授業実践を行う私たちにとって、今後の実践のあり方を分かりやすく教えていただいた。



(2) 外国語活動の取組

① 指導案及び教材の検討

外国語活動の年間指導計画を外国語活動部会で検討し、それに沿って、年間の指導案を作成した。教材も、部会で共同で作成し、児童が意欲を高めるようなものを工夫して作成した。部会で検討することによって、教材作成においても良い案が生まれ、お互いのアイデアや知識を共有し、子どもが楽しめる教材を作成することができた。

② A L Tや地域人材の活用

低学年及び中学年では、A L Tを活用し、児童は日本とアメリカの文化の違いに触れることができ、また、A L Tとコミュニケーションをとることで、外国に対するものの見方や、外国への興味・関心が高まった。アメリカには州があること、卒業式は日本と違うこと、A L Tの先生の家は日本の家と違うことなど、写真や説明から気づくことができた。

高学年では、J T Lとして英語に堪能な方を迎え、年間全ての外国語活動の時間に参加していただいた。J T Lから研究推進校での経験を生かした助言をいただきながら、各单元における効果的な指導方法について研究を進めることができた。発音面等においても良き模範となり、児童も教職員も外国語活動への意欲を高めることができた。

③ 研究授業

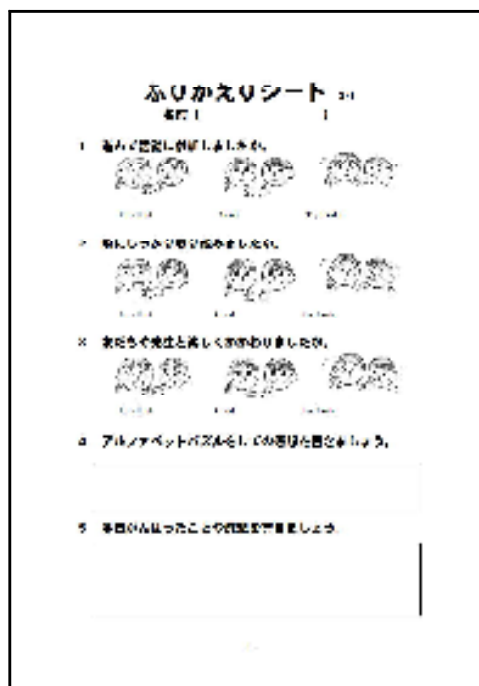
低学年、中学年及び高学年において、A L TやJ T Lを活用した年間3回の研究授業を実施した。部会のメンバーで授業を行うために、事前に指導案、教材等を検討し、役割分担を明確にした。また、1単位時間の授業における各活動のリーダーを決め、責任をもってそれぞれが進めることで、教職員一人一人が自身をもち、積極的に外国語活動を進めることができた。

また、児童も多くの先生と活動ができることを喜び、いつもより意欲をもって参加することができた。児童、教職員、A L T、J T Lが一体となって、楽しい外国語活動を実践した。

授 業 日	学 年	単 元 名
5月14日	低学年・中学年	あいさつをしよう
11月22日	低学年・中学年	色の言い方を知ろう
2月 4日	低学年・中学年	動物をさがそう
7月 6日	高学年	道案内をしよう
11月30日	高学年	自分の一日を紹介しよう
2月 1日	高学年	アルファベットで遊ぼう

④ ふりかえりシートの活用

毎時間ふりかえりシートに記入させることで、児童がどのような活動に興味・関心をもっているか、授業内容及び教材は適切であったのか等を振り返ることができた。各時間に共通な内容と、毎時間のねらいに関する内容を組みあわせて作成することで、その時間のねらいが達成できたかどうかを振り返ることができた。ふりかえりシートをもとに、指導方法の工夫・改善に生かした。



⑤ ワークショップ

現職教育において、部会による研修を実施した。下記の内容について、実際に体験しながら楽しくスキルアップを図ることができた。

- ・歌・チャンツ
- ・クラスルームイングリッシュ
～これだけは使えるようになりたい～
- ・インプットやインテイクに効果的な活動
「キーワードゲーム」「ビンゴゲーム」「ボンゴゲーム」「ミスィングゲーム」
「メモリーゲーム」「どんじじゃんけん」「ジェスチャーゲーム」「カルタゲーム」等
- ・コミュニケーション活動
「一日の生活スピーチ」「道案内」「行きたい国スピーチ」等
- ・Demonstration の実際
- ・興味・関心を高める教材・教具の作成
- ・ティーム・ティーチングの在り方

